

令和2年度 第1回振興審議会 議事録

- ◆日時 令和2年5月25日（月）午前10時00分
- ◆場所 市役所403会議室
- ◆委員 出席15名、欠席3名
- ◆事務局 みらい戦略課長、同補佐、企画調整係長、職員

〈次第〉

- 1 会長あいさつ
- 2 経過報告
- 3 協議
 - 1) 第6次南陽市総合計画基本構想（案）について
 - 2) 次期南陽市まちひとしごと創生総合戦略の策定方針について
 - 3) 第1期南陽市まちひとしごと創生総合戦略の効果検証について
 - 4) 南陽市人口ビジョンの改訂について
 - 5) その他

《意見等》

～答申～

- 1) 第6次南陽市総合計画策定の答申について
- 2) 市長よりあいさつ（お礼）

《議事録》

1. 「第6次南陽市総合計画基本構想（案）」について

【柴田会長】

ご意見いただいたことがきちんと入っている訳ではないが、考えて文言を入れているようだ。皆さん全員から意見をもらいたい。

【和田廣 委員】

私の立場では、特に不満はない。

【佐藤廣志 委員】

役所という立場から総花的なものを出さなければならないのは仕方がない。そういう観点から言えば、とても良い答申だと思う。

【高橋篤 委員】

よくまとめていただいた。

【高橋弘 委員】

発信力が不足しているという点を一番に出してもらった。

【高岡亮一 委員】

コロナ時代の怖さを感じている。世の中の大変動があり、突っ走っていたところに急ブレーキをかけて、みんなつんのめっている状態だ。落ち着いて考えてみれば、今迄が嵐のようだった。落ち着いた暮らしというのが、これから常態になるのではないか。コロナ以前のデータに基づいた総合計画なので、果たしてこれで出しているのか疑問を感じた。計画を1年延長してもコロナの世の中を踏まえて、出さなければならないのではないか。

【柴田会長】

私の私見だが、アフターコロナであってもやらなければならないことは結構入っている。

【船山利美 委員】

私は途中参加だが、計画書は1年くらい遅れるのではないかとと思っている。計画の中身については、少子高齢化と人口減少が一番大事なところだと思う。南陽市に住みたいとなるためには、企業誘致が必要だ。優良企業・産業には必ず人がついてくる。少子高齢対策、人口減少対策について、もう少しこの辺に具体的な文言があってもいい。アフターコロナでは東京で集中して仕事をする必要がなくなった。ここで逆に南陽市がどう関わっていくかである。

【高橋善一 委員】

農業に関しては私の思っていたこと全て網羅していただいた。話は変わるがスポーツと健康というのは、主にスポーツのことを言っているのだろう。しかし、PCRセンターの更なる充実や、検査体制の強化など含めてはどうだろうと思う。

【柴田会長】

ウィズコロナ、アフターコロナというのは非常に大きなキーワードになる。見直しをしていかなければならない。

【北野淑人 委員】

これから東京で必ず仕事をしなくてもいい時代が来るので、未来技術に関してはここに書いてある内容で差し支えないと再確認した。

【安部史生 委員】

具体的な施策というのは、総合計画に基づいて、2次計画で出てくるのだろうか。

(事務局)

- これから1年間、基本計画を策定して、その中には具体的な施策を盛り込むことを考えていた。基本構想を読むだけだと読み取れないが、これから庁内で検討して策定していきたいと考えている。
- 基本的な考え方は本日整理させていただきたい。各論的な、例えば企業誘致等様々なお話があるが、基本的には、住みやすい環境、移住を呼び込むといった、様々な観点があり、その中のツールとして、どういう事業を、この中でパズルのようにはめ込んでいくかだ。本日は、基本的に方向性がこれでいいのかどうかという話題になろうかと思う。

【安部史生 委員】

コロナの対応で発展的なものが出てくるだろう。もう1つ、個人的な話だが家族が老老介護になっている。新たな技術が入ってきたときに、高齢者が使いこなせるかどうか心配しており、そういった人をどう救っていけばいいのか気になっている。高齢化社会になってきていて、そこを言葉としてどう伝えていくのか。

【柴田会長】

技術の進歩というのは、使い易くなってくるということだ。どういう風に使いこなせるかは、市や色々な団体がバックアップしていくことになる。

【飯塚道雄 委員】

私は賛成する。まとめる作業大変お疲れ様でした。

【黒沢光高 委員】

私は検討には一切携わっていなかったが、柔らかい言葉を使っていて、非常に良い答申だと思う。具体化して、計画に盛り込んでいただければ、市の未来が明るくなると思う。先ほどからコロナの関係で延期のお話があるが、総合計画の危機管理の部分に新たに項目を設けるような検討も有りではないか。

【沖田志保 委員】

私もよくまとまった答申と拝見した。コロナは何につけても気になることだ。内容は素晴らしいと思うので、分野別に優先順位を付けて、安心安全が上に来るような微調整が必要なのではないかと思う。

【丸森周平 委員】

私もうまくまとまっていて、2月末であれば大手を振って賛成だった。コロナの影響があって、社会的な大変革があるので、1回2回くらい揉みながら、少し修正していくことが必要ではないかと思う。

【池田めぐみ 会長代行】

自分なりに拝見させていただき、皆さんの内容を見ると、事務方の労力をすごく感じられて、素直に感謝申し上げたい。沖田さんが触れていた点に私も同感だった。常にリスクとは表裏一体であり、今回のコロナで起こったことと、これから起こるであろうリスクを念頭に置いて実施することが必要だろう。優先順位を付けて、議論していくことが必要だ。そういった柔軟な対応ができる可能性をこの中には持っていてほしい。対応については、特段異議はないのだが、コロナへの対応が必要だと思うので、念頭に入れていただきたい。

【柴田会長】

総合計画基本構想(案)の意見交換はここまでとさせていただき、ここからは座のとりまとめを池田会長代行をお願いいたします。

2. 次期「南陽市まち・ひと・しごと創生総合戦略」策定方針について

【池田めぐみ 会長代行】

みなさんからご意見をいただきたい。

【佐藤廣志 委員】

私共の会社も中期計画を後回しにして、足元の1年間を何とかしようとなった。2008年のリーマンは金融がやられたが、今回のコロナはどこからやられているか、皆さん逆にご存知だと思う。しかし、考えようによっては、これは物凄いチャンスだ。市役所の職員は優秀なのに、よく自分は頭が堅いというが、この答申は全然堅くないと思う。これからの時代はビジネスモデルがどんどん変わる。何をやるかというよりも誰がやるかだ。市役所の職員はスキルが高いので面白くなると思う。若者を誘致するというのは無理だと思う。それなら、年寄りを誘致すればいい。60歳くらいの人は物凄く元気だ。こういう人が在宅やオンラインの中で、地方にいてもいいのではないかと北野さんもおっしゃっていた。そういう時代に間違いなくなる。そういう人たちを誘致するということはできないだろうか。若者を誘致するというのは、全部の自治体が考えているので、負けてしまう気がする。もう1

つは、工業団地ではなく、商業団地の誘致である。先ほどいった通り、別に地方にいても東京と同じ様な環境で仕事が出来るとしたら、1つの空きビル等をシェアオフィスとして考えることも1つの手法である。廃校の活用が南陽市で出来るのかは分からないが、そういうチャレンジもある。それから、市役所の職員も仕事を持ってはどうかと思う。仕事というのは、よそ者、馬鹿者が色々なアイデアを出して、それを年寄りがじっと我慢しながら見ているというのが成功の鍵だとよく聞く。オンラインで行政サービスをするのが今の時点では出来ないのであれば、そういう風なことも1つのやり方ではないか。最後に、この会議で、今のような新しいビジネスをやるには、1つは、せっかくのチャンスだから、山形大学と組む。柴田先生がいらっしゃるのだから、それも1つの手だ。池田さんが南陽市では稀に見る、オリンピック経験者である。スポーツと健康というのは、物凄くスキルが高い。そういう人達と一緒に市役所の人達が、もう1つの仕事を持って、上手にSNSで発信すれば、すごく魅力のあるまちだと理解してくれるのではないかな。あとはみんなで頑張ればいい。

【高岡亮一 委員】

今、1つのチャンスでもある。色々な可能性がある時代だと思う。若い人が地域に来る決め手は、地域に対する夢を見るためだ。今の公務員は優秀だというが、リスクを負わない。今の仕事が非常に安定していて、リスクを負うのを一番嫌っている気がしてならない。もう1つ仕事を持つというのは、面白いアイデアだと思った。1つは、夢が感じられることだ。市民も市の職員の間でも夢を語るような場があって、そして、街全体でそういったものが考えられる形になればいいだろうと思った。

【池田めぐみ 会長代行】

市役所の方が自分のやっている仕事にわくわくしたり、こうなったら面白いなと思う気持ちを持っていた方が市民にとってもいいだろう。是非、ポジティブな気持ちを忘れないようにしてほしい。

【丸森周平 委員】

今回のコロナの対応で、SNS上では、南陽市の公式ページや市長のフェイスブック等、凄く南陽市の評判がいい。なので、今、南陽市が他から来てもらえるように攻め入る時なのではないかと思った。危機の時の対応が素晴らしいと感じたので、そういったところを全面に押し出して、安心して住めるまちだとアピールしてもいい。

【池田めぐみ 会長代行】

私も市長のフェイスブックを見ている。そこからの情報が一番早い。発信する内容も大事だが、スピード感や誰をターゲットにどんな方法で発信するのかということも大事である。詰めていけば凄く情報発信のまちになると思う。それが1つ、子育てや教育へ連携していくのではないかと感じている。

【和田廣 委員】

佐藤さんに反論したい部分がある。確かに若者を連れてくるのは難しいが、若者を南陽市に残すことは出来るのではないかな。その辺りをもっと具体的に出来ないかいつも思っている。そのためには教育が大事だと思う。東京に行く人たちは、東京に憧れて行くのだろうが、けど今回コロナ問題で明らかになっているのは、おそらく東京の人達が一番、不幸な人が多いという現実ではないかと感じる。そういうところも含めてきちんと教育していけば、残る若者も増えていくのではないかと考えられる。

【池田めぐみ 会長代行】

確かにコロナの影響で、東京に行かなくてもいいと考えている人が多いと思う。山形でもハイレベルで高度な教育が受けられるということが担保されれば、入ってくる人達は多いと思う。“東京にいないければハイレベルではない”ではなくて、自然豊かな場所でリーダーを育成するというくらいの教育になってくると、若い人達の目線も変わってくると思う。

【高橋篤 委員】

今、和田さんも佐藤さんも企業誘致と言うが、自分達が経験していることが中央の人は分からない。冬の期間の南陽市は雪があるが、その対応も中央からは全然分からないと思う。だから、私は、やっぱり企業誘致も大切だと思うが、地元で活躍している企業をもっともっと大きくする対策も必要だと思う。例えば、私は子供が4人いる。3人は向こうに行っているが、向こうの子供に「こっちに来てくれ」と言っても帰っては来ない。人口が減るというだけでなく、減ったら減ったなりに、南陽市を持続させていくような施策も必要ではないかと思う。日本全国で30年か40年後には8000万人になる。減る“率”は同じだと思う。ここで暮らせる人達で、和田さんのように、企業を起こしている方は、どんどん大きくしていくことが夢だと思うが、ここに住んで、会社を起こして、それをいかにこれから大きく出来るようにするか、市全体で、皆さんで、考えるべきだと私は思う。

【柴田会長】

難しい話だが、これからは、全部変わって行って、従来の延長線上に企業はなくなる。地方の課題を解決することが非常に大きなポイントになる。それがすごく大きくなる。これからの南陽市、今回のコロナ禍でも、池田さんが言われたように、南陽市長が市民に対しての発信の仕方が一番良いといわれた。酒田の丸山市長と南陽市の市長が一番良かったという。そういう意味では、文化や住みやすさといったストーリー性をもっと発信すると、多分、アフターコロナ後に、南陽市は来る人がいっぱい出てくると思う。そういう意味では、南陽市の皆さんの考えは非常に素晴らしいと思う。

【北野淑人 委員】

皆さんのご意見を伺って、大変勉強させていただいている。総合戦略の効果の検証についてだが、観光はコロナの影響が一番受けているところだと思う。もちろん、これから変わっていくとは思いますが、当初計画されていたものから数字的には下がってくるので、現実的な目標数値を入れて頂きたい。それに対してどうやっていくかを明確に分かるとよい。おそらく、インバウンドはしばらく低調であると考えられるので、まず県内の人に来てもらって、そこからどういう風にするのかというのは、みんな考えていきたい。

【池田めぐみ 会長代行】

改めて、南陽や山形の魅力を、住んでいる人達が見つめ直す機会も待っているのではないかと思います。

【沖田志保 委員】

22頁で、「女性が住みたくなる環境づくり」というところを熟読していた。10代、20代で出て行って、それきり帰ってこないというのは、出先の東京等でお嫁に行ってしまうパターンというのが多いのではないかと考えてみていた。もし、東京で誰かと出会ったとして、その人が東京の人なら良いけれど、例えば、出会った人が福島の人だったりして、福島に行ってしまうのはちょっと寂しい。その時に、お嫁さんに来るという選択肢を打ち出しては如何かなと思った。子供の数を増やすというすごくデリケートな話も含まれてしまうので一概には言えないが、「理想の子供を持たない理由」というのが17ページに上げてある。そもそも、夫婦によって理想の数は違うので、4人ほしいけど3人で諦めたとか、1人は欲しいけど結局できなかったというのでは対応の仕方が全然違ってくる。南陽市では3人目を推進する施策をずっとやっていて、前者のもう1人ほしいという場合にはすごくケアされている。1人は欲しいけど、それを諦めてしまうところのケアも少し考えていくと、別の視点が増えてくるのかと思う。

【池田めぐみ 会長代行】

ここで育った人は自分たちの町の良さを伝えられるということが大きい。それが、行動のアクションに繋がることもあると思うので、外に向かって呼び込むことも必要だと思うが、何故よいのか、ここではどういう生活が待っているのかという、具体的なビジョンをここにいる人達が自分で描けると

いうことも大事なのではないかと思う。

【高橋弘 委員】

教育が大事だという話である。小学生、中学生は南陽市に住みたいという子供が多いが、高校になると、都会の方に行きたいとなる。そこで、私も高校で地元で根差した子供たちを教育するというところをもう少し考えなければと思う。若い人は都会に行って、山形に戻ってくるかということ色んな手段があるが、帰らない。今ある企業を大事にしてもらいたい。また、企業でも学校の方に色んなPRをして、地元にはこういう会社があるということを発信していけば、勤務先のPR発信も出来る。

【池田めぐみ 会長代行】

ないものを補うよりも、あるものを数えていく方が生かされることもあるだろう。色んな視点で南陽市を盛り上げていければいい。

【黒沢光高 委員】

質問したい。6頁の下の部分、南陽市への編入というのは、置賜全自治体で転入が転出を上回っている状況だ。山形と県内のその他は県内に流入するのがマイナスになっている。これは、何かのヒントになるのでは。全自治体で南陽市の転入が上回っている点について、市としてはどう分析されているのか。

(事務局)

- 従来、南陽市は位置的に公共交通網の結節点になっている。具体的には、県を縦断している国道13号、横断している国道113号の結節点になっている。西置に走る山形鉄道に関しても、フラワー長井線の始点が赤湯駅になっていて、交通の便が良いというのが大きな要因だと思う。更なる分析はこれから、調べないと分からない。

【黒沢光高 委員】

交通が要因ということだが、毎年こういう状況なのか。

(事務局)

- 5年前に策定した人口ビジョンを見ると、同様に置賜の中では同じ様な状況になっている。例えば、米沢市からの転入は93に対して転出は89となっていたりする。その年々によって、例えば5年前だと高島町からは、転入が67に対して、76だったこともあり、若干の違いはあるようだ。
- 概ねの傾向としては、毎年同じ傾向である。置賜の中では選択肢として選んでいただいているが、逆に山形市、県外への転出が多い。この課題をご指摘いただいた通り、勉強して、深掘りしていくことも重要だと思っている。今後、次回の振興審議会で様々検討してまいりたい。

【黒沢光高 委員】

新幹線は良い影響等はないのか。

(事務局)

- 新幹線は、通っていない自治体はあるが、ほぼ、人口の減少率は、その沿線自治体に比べると各段に減少率が大きい。新幹線が通っているところ、あるいは、13号線が通っているところは減り幅が少ない。もしくは、天童、東根に至っては、イーブン程度になっている。ただいまご指摘の点は、傾向としてあろうかと思う。

【高岡亮一 委員】

住みたいと思われなければいけない中で、交通の便が良くないと答えた人が 37 人いる。意外とこれは大きい。

(事務局)

- 公共交通も様々ある。少子高齢化が進んで行く中で、免許を返納する高齢者の方が増えてきている現状もある。今、コミュニティバスが3路線走っていて、沖郷地区に新しい沖タクというサービスが始まっている。それでも、住みにくさを感じている人が多いのだろう。もしくは、家族の中で話している中で、「もうちょっと便が良ければいいのにね」という話が、市民意向調査に繋がっているのではないかと思う。

【柴田会長】

今のお話は非常によくするお話だが、便利になればなるほど「ストロー現象」と言って、福島や仙台に軽く行けてしまうので、まちに魅力がないと吸い取られてしまうということである。今日も皆様のご協力で南陽市らしい色んな議論が出たと思う。ご協力どうもありがとうございました。

以上